

# 神奈川ネットワーク運動 海老名

## 生き活きまちづくりレポート



市議会議員 つつ木みゆき

No.120

2021年10月20日発行

発行責任：神奈川ネットワーク運動海老名  
代表 斉藤いずみ

発行部数 27,000部



〒243-0422  
神奈川県海老名市  
中新田 1-11-11  
TEL：046-235-7014  
FAX：046-234-5302

<http://ebina.kanagawanet.jp>  
e-mail:ebinanet@mub.biglobe.ne.jp

### つつ木みゆきの一般質問

9月議会

## 公共施設附帯駐車場の有料化反対!

## 署名7,622筆集まりました! ご協力ありがとうございました。

前号のまちづくりレポートを見て沢山の署名を集めてくださった方が大勢いました。多くの方々に関心を持っていることを実感しました。議会では6名もの議員が一般質問をしました。これからも市民の皆さんと共に公共施設駐車場有料化撤回を求めていきます。

## 保護猫活動で 良好な環境と 地域の輪を つくろう!



現在、海老名市では市民からの野良猫の問題を受け、動物愛護団体「清川しっぽ村」に調査と猫の保護TNRの依頼を行っています。猫の保護団体として登録しているのは「しっぽ村」ですが、多くの飼い主のいない猫の様々な保護活動を行っているのは大半が個人のボランティアの皆さんです。活動には避妊、去勢手術、ウイルス検査など多額の費用がかかります。一部の寄付はあるもののほぼ自費で賄われているのが現状で、活動を長く続けることが困難な状況です。猫の継続的な里親探しを維持するのはとても難しい状況です。

海老名市は、保護猫活動、地域猫活動が他市よりも遅れています。保健所がないから、県の管轄だからと言ってはいられません。野良猫の問題は地域の環境の問題でもあります。地域の問題は市の行政がしっかりと対応することを市民は求めています。自治会と市そして保護猫ボランティアの3者が協力して進めていかなければ前に進むことは出来ません。地域猫として、地域住民が管理することで野良猫によるトラブルをなくす試みであることを理解してもらう必要があります。

熊本県では、“人と動物が共生するくまもと”の実現を目指すために自治会と連携しています。本市も自治連と協力していくために、会議の場を作ることを提案しました。

## 高齢者が 気軽に外出できる 海老名市に!



我が国は高齢化が進行し総人口が減少する中、65歳以上の高齢者人口は2020年9月の時点で3,617万人と過去最高になっています。海老名市も例外ではなく高齢化率は2012年10月の20%から2021年1月には24.7%に増加し高齢者の人口は33,665人となり、高齢化が急激に進んでいます。高齢者の社会参加を促すためには様々な移動手段が必要かつ重要になってきます。そのような中、公共交通機関へのアクセスも不便な、コミュニティバスも通らない場所に住んでいる高齢者などの生活交通への様々な支援について質問しました。

障がいのある方への支援として「福祉タクシー券」、高齢者や障がい者の移動手段として「ぬくもり号」「さくら号」、年齢のしぼりのない「コミュニティバス」などがあります。このような交通手段を使えない市民に対して、デマンド交通（希望通りに時間や場所を予約できる）やバスチケット・タクシーチケットの配布などあらゆる支援を早急に作るように要望しました。

### 決算の賛成討論

令和2年度海老名市一般会計、及び特別会計、公共下水道事業の歳入、歳出決算について会派を代表し賛成の立場から討論しました。令和2年度も新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、全国的に深刻な医療逼迫が続きました。

海老名市においては一時的に感染者が急増したもののワクチン接種もほぼ順調に進み、自宅療養者の支援も充実しました。

一般会計決算ではコロナで最悪な状況になると思われていましたが、健全財政が維持されています。基金（貯金）の残高は市民一人当たり48,410円で政令市を除く県内16市において7番目、企業会計分を含めた市債（借金）の一人あたり残高は297,850円となり、県内16市においては最も少ない金額になっています。

令和2年度の海老名市では高齢者支援の充実を目指し、「えびな高齢者プラン21第8期」では医療・介護・介護予防・住まい・自立した日常生活の支援を一体的に提供する「地域包括ケアシステム」をさらに深化させるとしています。本市には500人のひきこもりの高齢者がいると言われていています。基幹型地域包括支援センターの取りまとめを通し、さらなる相談しやすい支援の窓口を求めました。

LGBTQについて性の多様性の問題は小・中学校での様々な取り組みの促進について、ICT教育では情報機器の授業活用で新たないじめ問題が起こらないよう管理体制を強化すること、そして「医療ケア児」への支援体制の充実などを要望しました。

## 「公共施設駐車場の有料化反対」の 請願書と署名7,622筆を提出



市は市民活動センター（ビナレッジ・ビナスポ）、文化会館（図書館・福祉会館）、運動公園、中野公園、北部公園の5か所の公共施設駐車場の有料化を進めています。市民に負担を強いる重大な計画にも関わらず経緯や説明がなくパブリックコメント（意見公募）を6月に1ヶ月間実施したのみでした。9月議会で審議し採択されると来年1月より有料化される計画は、あまりにも市民を軽視しています。

署名活動は1ヶ月足らずでしたが、予想を上回る7,622筆の反対署名が集まりました。駐車場の有料化を知らない市民が殆どでした。該当施設の利用者は利用ができなくなる不安や反対などの声がありました。

パブリックコメントは、過去最多の600人2,136件の意見が集まり市民の関心の高さが伺えます。料金案の反対を含めると9割以上が反対でした。

市は、パブリックコメントの影響もあり9月議会に提出予定の「条例改正案」を、11月の臨時議会に先送りしました。尚、9月議会に提出した撤回の請願は継続審議になり、閉会中に審議されることになりました。

駐車場の有料化は、市民活動の場を奪いかねない大きな問題です。行政は、市民が自主的に生き生きと活動できるように推し進めることが使命のほうです。市の財政は、2020年度の決算ではコロナ禍においても健全な状況にあります。市民の切実な声を聴かずに、どこに税を使うのか海老名市の姿勢が問われています。

「駐車場有料化反対市民の会」代表 斉藤

## 生きる力を付ける多様な学びの場

### 「学びのビュッフェ」(まなピタネット主催)に参加

多様な居場所を提供しているグループが一堂に集まり、それぞれの取り組みを情報交換しあう催しに参加しました。不登校や発達障害など学校に合わない子や、もう一度勉強し直したい人、居場所を探す人たちにいろいろなワークの仕方で過ごす場を提供しています。ワークとは、遊び、料理、読書、勉強、スポーツ、旅行、その他何でもありです。

現在海老名市内だけでも252名の小・中学生が不登校になっています。今までのあり方を思い切って変えなければ解決できない問題だと思います。無用な声かけや押し付けは、存在を否定してしまいます。皆同じでなくていいのです。「こうあらねばならない」「こうするのが当たり前」という考えを捨てて、その人に一番合った居場所、「好き」を見つけることが解決につながるのではないのでしょうか。生きる力を付けるために、どの年齢の人にも様々な居場所が用意されていますので探してみませんか。

「えびなえんぴつの会」廣田

## 電磁波測定会

高速大容量の5G通信網が実施され、電磁波の影響はますます強くなってきました。そこで、NPO法人市民科学研究室 上田昌文さんに計測器：GQ EMF-390を使った電磁波測定会を生活クラブ海老名コモンズと共催しました。

火事を起こしにくいIH調理器(電磁調理器)が普及しています。固定式IH調理器の電磁波計測は下記の通りです。その為、メーカーの安全値は器具から30cm離れたところに設定されていますが、30cmも離れて調理することは不可能です。トッププレートを覆えるような大きな鍋を使い、強火にしない、なるべく離れて調理することで被曝量を少なくすることができます。



IH調理器の電磁波測定値			
鍋の大きさ	火の強さ	器具からの距離	電磁波 mg(ミリガウス)
大	中	30 cm	3.4
小	強	10 cm	203.8

頭痛・めまい・だるさを引き起こしたり生殖器への影響や発がん性が疑われる電磁波。細胞分裂の著しい成長期の子どもにはスマホやゲーム器から遠ざける必要があります。ミルクをやりながらのスマホママ許されません。電話工事と称して、電柱に5Gアンテナを設置する工事が市内でも見受けられました。納得のいかない工事には説明を求めていく必要があります。

(西田)



## 給食アンケートを実施して

海老名市の2023年度全中学校完全給食実施に伴い、安全、安心でおいしい給食が提供されるよう、生活クラブ組合員や市内5つの学童クラブに協力して頂きアンケートを実施しました。

「待ち望んでいた中学校給食が実施されることになり良かった」「子どもの成長を日本の宝として国民全員で安心安全な給食を提供していきたい」「学校給食こそ、食の安全に十分配慮するべき」というような意見が多くありました。

近年、日本は「世界で一番企業が活躍しやすい国」を目指すとして規制緩和を推し進めてきました。その結果、容認された食品添加物は増え続けて829にも及び、遺伝子組み換え作物の認可数は世界トップとなり、単位面積あたりの農薬使用量は韓国と並ぶ世界トップクラスとなってしまいました。子どもたちへの健康被害が危惧されます。日本で使用量の多い有機リン系やネオニコチノイド系農薬は神経毒性のある農薬です。子どもの脳の発達を阻害する可能性についての研究も報告されています。発達障害児急増と並行してネオニコチノイド系農薬使用量も急増(最近十数年で3倍に増加)したというデータもあります。

安全な食べ物で子どもたちを守ることは大人に課せられた責務と言えます。まずは、海老名市に対し有機栽培(化学肥料や農薬に頼らず土づくりを行い育てること)の食材を給食に取り入れるよう提案していきます。

(子ども部会 猶井)

### ●つつ木みゆきのお話タイム●

コロナ感染症予防のためにお話タイムは今回中止します。ご希望の場合はご連絡ください。

問い合わせ先：つつ木 046-234-3264

編集後記 政治って何だろうと考えてしまう。前総理は「国民のために働く内閣」を掲げ、新総理は「丁寧で寛容な政治」と発言している。裏を返せば、それは政治の世界ではかなり難しいことなのかもしれない。「受益者負担、公助より自助」を強調する政治家もいるが、誰一人取り残さない政治を望みます。(T)

\*生き活きまちづくりレポートはボランティアが配布しています。お手伝いしていただける方を募集しています。事務所までご連絡ください。